

病害虫複合抵抗性の 緑茶用中生新品種「かなえまる」

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：茶

技術の概要

「かなえまる」は2022年3月15日に品種登録された中生緑茶用新品種で、摘採時期は「やぶきた」と同時期である。

クワシロカイガラムシ、炭疽病、輪斑病およびもち病に対し、抵抗性を有することから、化学農薬を低減できる。

耐寒性が強いことから、冷涼地から中山間地を含む主要な茶産地で広く栽培が可能で、せん茶の他に、かぶせ茶や玉露への加工適性が高い。



かなえまる一番茶期の園相（2022年4月13日撮影）

導入の留意点

- ・挿し木苗は、定植初年度は生育がやや緩慢である
幼木期の栽培管理を適切に行う。
- ・赤焼病に弱いので、常発地域では防除が必要である

その他（価格帯、研究開発・改良、普及の状況）

●改良・普及の状況

- ・2022年7月時点で苗の利用許諾を取っている業者数：6

関連情報

- ①茶品種ハンドブック 第6版version2
(令和4年)



- ②研究成果情報：クワシロカイガラムシ抵抗性のある中生緑茶用品種「かなえまる」（令和2年）



効果

◎減化学農薬栽培が可能

病害虫複合抵抗性を有しており、減化学農薬栽培が可能であることから「みどりの食料システム戦略」の推進に資するとともに、残留農薬リスクを低減する海外輸出向け栽培体系に導入可能で、輸出拡大にも貢献できる。

◎「やぶきた」の代替品種として有望

「やぶきた」と同時期に収穫でき、病害虫抵抗性に優れ、収量が多く、製茶品質も優れることから、「やぶきた」の代替品種として有望である。

かなえまる

